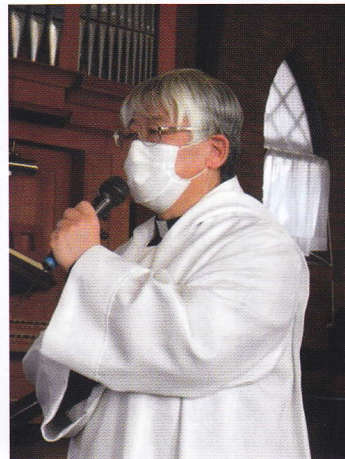


# 月報 蕨の教会 日本聖公会 川越キリスト教会

〒350-0056 川越市松江町 2-4-13 (牧師) 司祭 パウロ鈴木伸明 ☎049-222-1429 FAX049-222-2056  
http://www.kawagoe-seikoukai.org/ (編集) 文書部 ルカ 野澤 達也

2021 年度宣教テーマ 「わたしの家はすべての民の祈りの家 (聖書) — 煉瓦の聖堂100周年 —」

聖堂聖別百年のイースターメッセージ  
**希望と恵み**  
司祭 パウロ 鈴木伸明



本年は教会暦B年ですので、主日礼拝ではマルコによる福音書を主に読むこととなります。マルコによる福音書は4福音書中最も短い福音書ですが、全体の3分の1を主イエスこの世最期の1週間に、6分の1を十字架の1日に使っていて、いかに主イエスの受難を重視していたかを知ることができます。

「主イエスは何一つ罪はなかった、にもかかわらず十字架につけられたのは、サドカイ派、ファリサイ派、律法学者などユダヤの指導者たちのねたみと、自らの保身に執着した総督ポンテオ・ピラトのためだった、そして主イエスはすべての人の罪を

負って命をささげるメシア・救い主となった。

主イエスは墓に葬られたが、3日後、墓は空であった、主イエスは人々の罪やローマ帝国の権力に打ち負かされてしまったのではなかった、イエスは復活し、貧しい人、苦しめられている人、蔑まれている人が大勢住んでいるガリラヤへ先に行かれる、そこでお目にかかれる……」

マルコはこのように十字架の物語を語りつつ、苦しんでいる人、さげすまれている人、悲しんでいる人には必ず希望が与えられると語り、主イエスを信じ、従う者には、時間と距離を超えて同じ恵みが与えられると伝えているのです。人々の涙がぬぐわれ、悲しみが喜びに、失望が希望に、落胆が勇氣に、人間では出来ない力が与えられるのだと告げ知らせます。

マルコは一方、時の権力者に対して批判的でした。ファリサイ派、律法学者たちは本来、人々に律法を讀み聞かせ、それを守るように模範を示すのが役割でした。識字率が低かった当時ですので、指導者たちの影響は私たちが考えるよりはるかに大きかったでしょう。しかし彼らは正しい教えを伝えるのではなく、自分たちが人々から尊敬されるために

律法を利用するばかりか、人々を差別するのに律法を用いていたのです。病気で苦しんでいる人に対して、その人が罪を犯したから病気になったのであってすべては自分の責任だと決めつけ、援助の手を差し伸べることもありませんでした。その結果、神様の愛は人々の心からなくなり、その心は冷え切ってしまった。主イエスが宣教活動をされたのはそういう人々に対してだったのです。

昨年引き続き、本年も新型コロナウイルスの影響下でイースターを迎えることになりました。感染による影響は深刻です。そして感染した人々への差別や偏見が激しいのも大きな問題と言わねばなりません。主イエスの時代に病気で苦しんでいた人々とまるで同じことが私たちの周りで起きています。

復活の喜びは本年、私たちに一段と大きな存在としてせまってきました。すべての人が不安と危機に陥っている中で、命を超えた喜びと希望を主イエスは復活を通して示されました。その主イエスを私たちはこのイースターにしっかりと心に迎え、告げ知らせていきましょう。主はよみがえられた！ ハレルヤ！

(川越キリスト教会牧師)